

コード	501034701
記入日	H23.6.10

課コード	125
課名	生涯学習課
課長名	西川 義男
担当者	入江 寛生

事務事業途中評価表

作成年度	平成 23 年度
------	----------

評価対象事業名称	海洋青少年の家管理運営事業
----------	---------------

事業種類	単年度繰返事業
事業期間	平成 17 年度 ~ 平成 - 年度

総合計画の位置付け				財務会計の位置付け	
政策コード	5	政策名称	しまの誇り・文化の育成	款コード	1
施策コード	501	施策名称	学校教育の充実	項コード	1
基本事業コード	50103	基本事業名称	義務教育の充実	目コード	1
事務事業コード	5010347	事務事業名称	海洋青少年の家特別会計事業費	細目コード	
関連計画		法令・条例規則等	長崎県立青少年教育施設に関する20年度協定書		

計画 (PLAN)

※単年度繰返事業については、全体欄を*****とする。

対象：誰、何を対象にしているのか		対象指標：対象の大きさを表す指標						
(対象1) 児童生徒及び住民		(対象指標1) 23,210人 (H22.4.1現在)						
(対象2)		(対象指標2)						
事業の概要：具体的なやり方、手順、詳細を記入		活動指標：事務事業の活動量を表す指標・達成率 (上段：全体、下段：評価年度)						
(全体)		(評価年度実績)		(指標名称)	(指標数値)	(達成率)	(達成率積算根拠)	(目標達成年度)
*****		①適正な維持管理を行い施設の運営を行った。 →保守点検回数 21回		① 保守点検回数	21回	100%	保守点検回数21回+計画した保守点検回数21回	***** 平成22年度
		②青少年の育成を目指して事業を行った。 →開催回数 8回、開催日数8日		(達成率分析)	計画どおり実施した。			
		③児童生徒の宿泊訓練として施設利用や体験活動の指導を行った。		② 主催事業開催数	8件	88.8%	開催件数8件+計画した開催件数9件	***** 平成22年度
				(達成率分析)	9回の事業を計画したが、諸事情により計画どおり開催できなかった。			
目的：何をしたいのか		成果指標：目的の達成度を表す指標・達成率 (上段：全体、下段：評価年度)						
				(指標名称)	(指標数値)	(達成率)	(達成率積算根拠)	(目標達成年度)
				① 閉館した日数	312日	102.2%	閉館した日数312日+閉館すべき日数305日	***** 平成22年度
				(達成率分析)	閉館日に利用申込みがあり、閉館したことで計画以上の実施となった。			
				② 利用者数	4,708人	98.0%	利用者数4,708人+計画した利用者数4,800人	***** 平成22年度
				(達成率分析)	前年度を上回る計画を立てたが、僅かに減少した。体験活動メニューの工夫等を図り、利用者増に繋げたい。			

実施 (DO)

※単年度繰返事業については、評価終了した年度及び評価年度を記載し、その合計を全体計画欄に記載する。

	単位	全体計画		21年度以前	22年度		23年度	24年度	25年度	26年度	27年度以降
		計画	実績	実績	計画	実績	計画	計画	計画	計画	計画
活動指標	① 回	96	96	75	21	21					
	② 件	48	47	39	9	8					
成果指標	① 日	305	312	312	305	312					
	② 人	28,732	28,640	23,932	4,800	4,708					
総事業費 C (A+B)	千円	123,828	123,527	104,856	18,972	18,671					
直接事業費 A	千円	81,828	81,527	69,856	11,972	11,671					
人件費 B	千円	42,000	42,000	35,000	7,000	7,000					
内訳	従事職員数	人	6.0	6.0	5.0	1.0	1.0				
	人件費単価	千円	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000
Cの財源内訳	国補助金	千円									
	県補助金	千円	8,308	8,308	4,154	4,154	4,154				
	起債	千円									
	その他	千円	15,803	15,803	12,414	3,389	3,389				
一般財源	千円	99,717	99,416	88,288	11,429	11,128					

評価

※理由の欄は必ず記載すること。

妥当性	・町が税金を投入して行う必要がありますか。	●ある ●ない	理由	県内唯一の海洋型青少年施設、また五島にも青少年施設が無いことから是非必要である。
	・時代情勢や環境の変化などを考慮しても、事業を行う必要がありますか。	●ある ●ない	理由	どの時代にも青少年に対する体験施設は必要であり、体験を通しての健全育成は欠くことができない。
	・事業の対象・目的は適切ですか。	●適切 ●不適切	理由	青少年の健全育成が目的であり、適切である。
有効性	・現在の事業の進め方が期待されるような成果をもたらしていますか。	●いる ●いない	理由	事業を通して子どもたちの成長等もあり、学校などから多くの事業を期待されている。
	・成果を向上させる余地はありますか。	●ある ●ない	理由	秋、冬の利用者拡大で、今以上の成果が見込める。
	・事業を行わない場合の影響はありますか。	●ある ●ない	理由	青少年の健全育成に支障がある。
	・類似事業との整理統合はできませんか。	●できる ●できない	理由	唯一の海洋型青少年施設であり、ここでしか体験できないものがあり、整理統合はできない。
効率性	・直接事業費を削減することはできませんか。	●できる ●できない	理由	活動にひつような経費計上であり、これ以上の削減はできない。
	・人件費を削減することはできませんか。	●できる ●できない	理由	職員も1人であり、その他の賃金も運営最低限の人数でありこれ以上は削減できない。
	・受益者負担は適正ですか。	●はい ●いいえ	理由	県との指定管理者協定書に沿っており、妥当である。

改善

改善策	1次評価	妥当性	現在のところ計画を見直す必要はない。
		有効性	秋・冬場の利用者を増やすことで有効性をあげることができる。
		効率性	現在のところ計画を見直す必要はない。
		課題に向けた改善策	海洋体験ができない期間（10月～3月）の施設の効果的な利用に向けての事業立案を行う。
	2次評価	妥当性	施設の設定趣旨に則り、適正な施設運営に努めること。
		有効性	冬季の利用を促すとより成果を挙げることが可能であるが、新規企画を検討、協議しながら進めていくこと。
		効率性	利用者の使用に支障がないよう施設管理を行うとともに、経費の節減に努めること。

住民等の意見	
町の対応	

今後の事業の方向性	1次	2次	3次	
	●			このまま事業を継続
		●		事業内容を見直して事業を継続
				事業費を見直して事業を継続
	1次	2次	3次	
				類似事業と整理統合
				事業の休止
				事業の廃止

※3次評価については、住民等の意見があった場合にのみ、再公表するものとする。